

小2で被災の新婦



阪神大震災から25年前に結婚式を挙げた岡本大(二さん)と前田緑さん(三さん)。神戸市中央区で

阪神大震災から25年になるのを前に、一組のカップルが13日、神戸市内で結婚式を挙げた。震災の年に生まれた新郎と、子どもの頃に被災した新婦。震災を機に進んだ大学で出会い、災害ボランティアや防災活動に取り組んできた。「神戸と共に生き、次の世代に教訓のバトンを渡す担い手になりたい」。故郷の街で夫婦として新たな門出を誓った。(横井武昭)

「神戸伝える」バトンを共に



二人は防災設備メーカーに勤める岡本大(二さん)と、神戸学院大職員の前田緑さん(三さん)と神戸市西区。結婚式は式場の運営会社「クレ・ドゥ・レーブ」(同市中央区)が復興応援として企画し、挙式費用をプレゼントした。震災のあった一九九五年一月十七日、前田さんは小学二年。自宅は大黒柱が割れて屋根瓦が落ちたものの、家族は無事だった。「大きな被害を受けた人とは比べると自分は被災者と言えるのか」と悩んだこともあったが、「いつか防災を学んで伝えたい」と強く感じた。兵庫県立舞子高校で全国唯一の防災専門学科として発足した

故郷誇りに 誓いの門出

環境防災科の一期生となり、神戸学院大でも防災教育を専攻。教材づくりや語り部の出前授業に励んだ。現在は同大職員として、学生らと東日本大震災の被災地に足を運んで人と交流したり、防災サークルを指導したりしている。前田さんが同大助手だった時、防災教育セミナーの学生として出会ったのが岡本さんだった。震災の年の十一月に神戸市垂水区で生まれ、地震のことを学校で親から聞いて育ったが、どこか現実感がなかった。大学三年の時に熊本地震が起き、現地でがれき撤去や避難所支援のボランティアをした。「街が想像を絶する崩れ方で、自分が生まれる前の震災もこんなふうだったのかと初めて感じました。地震対策で被害の少ない家もあり、震災を知らない世代でも備えの大切さを伝えたい」と結婚式はそんな二人の思いがリンクが光った。

桃田選手事故で全身打撲

バド世界1位 マレーシアで車追突



マレーシアのクアラ Lumpur 近郊で十三日、大会出場のために同国を訪れていたバドミントン男子シングルス世界ランキング一位の桃田賢斗選手(NTT東日本)らが乗ったワゴン車が大型トラックに追突、運転手二名が死亡し、桃田選手が顔を打つなどのけがをした。関連⑥面

わせたところ、骨折は確認されていないという。ワゴン車にはほかに平山優斗選手(日本ユニシス)、森本哲史トレーナー、英国のバドミントン関係者が乗った。平山選手は右すねの骨折や歯の損傷、森本トレーナーは右前腕を骨折するなどした。桃田選手と森本トレーナーは車の二列目、平山選手は三列目に座っていたという。現地の病院で治療を受けている。病院を訪れたサイドサテイク青年・スポーツ相は「状態は安定している」と



名古屋市天白区の名城大天白キャンパスで理工学部男性准教授(四)が首など

留年恐れ 単位依頼 名城大刺傷 研究室施設、馬乗り

を刺され負傷した事件で、殺人未遂容疑で逮捕、送検された同学部三年の野原康たが、野原容疑者は受けていなかったことも分かった。捜査関係者によると、野原容疑者が研究室を訪れた時、リポートをまとめる際に、リポートを締め切らないうちに、野原容疑者から「単位はあげられない」と言われた。研究室は施設され、大学関係者が騒ぎに気付いて合鍵で室内に入った時に



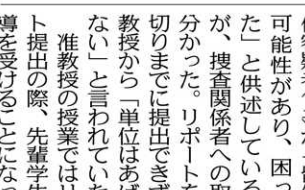
千曲川の堤防決壊3ヵ月

千曲川後方の堤防決壊から3ヵ月。2人が亡くなった長野市長沼地区で黙とうする人々。13日午後0時3分。この日は、同地区住民自治協議会の役員ら十三人が同市赤沼の赤沼公会堂に集まり、正午に防災行政無線の放送に合わせて黙とう。役員は「生活は以前に戻りつつありますが、復旧復興にはかなりの時間がかかると。地区の世帯数は減っており、安心して住めるような環境をつくりたい」と話した。市社会福祉協議会は、年末年始に一時休止した災害ボランティアの受け入れを再開し、今月十三日に延べ七十三人が活動。今後のボランティア受け付けは事前登録制とし、十三日だったん締め切った。

は、野原容疑者が准教授に馬乗りになって襲っていた。野原容疑者は富山県出身で、天白区のマンションで暮らしていた。

通風筒

江戶時代の古式捕鯨を再現して鯨の供養と大漁を祈願する「ハラソ」旗をなびかせた櫓ぎ船。約二十五人が乗込み、櫓を漕ぎ出港。鯨を見つけた時の合図とされる「ハラソ、ハラソ」の掛け声とともに、男衆が鉦を高く掲げ、海へ突き刺す。見物客らは歓声を上げた。



准教授の授業ではリポート提出の際、先輩学生の指導を受けることになってい



減少傾向の新成人を象徴するように、後継者不足が悩みの種。同町の浜中靖人区長(七)は「祭りの存続が心配だが、継承していきたい」と話した。

鳩山元総務相遺族 7億円の申告漏れ 相続財産、国税が指摘

2016年6月に67歳で死去した鳩山邦夫元総務相の遺族が

昨年、東京国税局の税務調査で相続財産約7億円の申告漏れを指摘されていたことが関係者への取材で分かった。鳩山氏から資金管理団体への貸付金を、誤って相続財産に含めていなかったなどとして、追徴税額は過少申告加算税を含め約2億数千円で、既に修正申告したもようだ。鳩山氏が代表を務めた資金管理団体「新声会」の収支報告書によると、死去後に新声会が解散した時点で、鳩山氏

からの貸付金が6件、計約4億5000万円あった。関係者によると、鳩山氏の妻エミリーさん、次男で衆議院議員の二郎氏(衆院福岡6区)は遺族は、この貸付金を申告していなかった。他に不動産の評価額の誤りなどもあった。二郎氏遺族4人が相続した遺産は、計100億円を超すとみられる。鳩山氏の祖父は、プリチストン創業者の故石橋正二郎氏。